



EXtra, EXpert and EXtreme

2006 Vol.

EX-PRESS

7



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP



Photo by H.Wakita/Y.Harada(c)

6ポイント差を追う渡辺篤がポールポジション、伊藤真一は2列目7番手。タイトル争いの結末は!?

4月に開幕し、全7戦で戦われてきた全日本ロードレース選手権。この鈴鹿大会で最終戦となる。GP125以外は最終戦でタイトルが決まるため、今日の決勝レースは最後まで目が離せない。特にJSBクラスは、昨年のチャンピオン、伊藤真一(KEIHIN KoharaR.T.)と渡辺篤(ヨシムラスズキwithJOMO)の一騎打ちで、6ポイント差で伊藤がリードしている。6ポイントの差というのは、例えば渡辺が優勝し、伊藤が4位以下にならないと渡辺はチャンピオンにならないほどの差ではある。渡辺に有利に働くとすれば、チームメイト、秋吉耕佑(ヨシムラスズキwithJOMO)の存在だ。渡辺の援護役として心強い存在になる。さらに、昨年の鈴鹿8耐でヨシムラから出場した加賀山就臣(YK SUZUKI with Bright Logic)が参戦する。加賀山はワールドスーパーバイク(SBK)にフル参戦しているが、SBKシーズンが終わり、この最終戦だけスポットで全日本に参戦

する。いざというときには、加賀山も渡辺の援護に回ってくれるだろう。

午前中の予選1回目。A組では加賀山が2分08秒686でトップに立ち、世界選手権を戦うライダーとしての実力を見せつける。A組では2番手に伊藤がつけている。しかしB組で中須賀克行(YSP&PRESTOレーシング)が2分08秒512と、加賀山を上回るタイムをたたき出して総合のトップに躍り出る。渡辺は、チームメイトの秋吉耕佑(ヨシムラスズキwithJOMO)についてB組3番手。

午後の予選2回目。A組の予選、残り5分、加賀山が2分08秒363とコースレコードをマーク。続いて伊藤もタイムアタックに入るがなかなかクリアラップが取れず、加賀山のタイムを越えることができない。残り1分、A組4番手だった山口辰也(ホンダドリームカスタロールRT)が2分08秒310をたたき出し、加賀山をかわしてリーダー

ボードのトップに躍り出る。最後に伊藤がタイムアタックを試みるが2分08秒761、3番手タイムでチェッカー。続くB組では開始早々に中須賀がタイムアタック、2分08秒598でB組トップに立った。残り8分、秋吉がタイムアタック。2分08秒411と中須賀を抜いてB組トップに。秋吉はさらにタイムアタックを続け、2分08秒118で山口のタイムをも上回る。残り3分。今度は渡辺のタイムアタックが始まった。各セクションで最速ラップをマークし2分08秒026をマーク。さらに徳留和樹(ホンダドリーム無限RT)が2分08秒299で3番手に浮上。ここで終了。渡辺がポールポジション。秋吉が2番手、3番手に徳留、4番手に山口、5番手に加賀山、6番手に中須賀と続き、伊藤は2列目7番手から渡辺の背中を追う。

[青木 淳]



MFJ SUPERBIKE
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

楽しみ方いろいろ。
MFJ SUPERBIKEの情報満載

2006年もGAORA(CS放送)で全戦放映!!
地上波ローカルTV局ではダイジェストを放映!
レース速報はMFJオンラインマガジン mfj.or.jp
情報満載のファンサイト superbike.jp へ!!

TIME TABLE MFJ GrandPrix

10:00 -	GP-MONO 決勝レース 10Laps
10:45 -	ST600 スタート進行(選手紹介)
11:00 -	ST600 決勝レース 12Laps
11:40 - 12:15	ピットウォーク
12:30 -	GP125 スタート進行(選手紹介)
12:45 -	GP125 決勝レース 15Laps
13:40 -	JSB1000 スタート進行(選手紹介)
13:55 -	JSB1000 決勝レース 17Laps
15:00 -	GP250 スタート進行(選手紹介)
15:15 -	GP250 決勝レース 17Laps

*上記タイムテーブルは、変更されることがあります。

安田毅史が強烈な先制パンチ! 渡辺 VS 安田のタイトル争いの行方に注目!



最終戦決戦となったST600クラスのタイトル争い。JSB1000クラスとダブルエントリーしている渡辺篤が暫定ランキングトップにつけ、5ポイント差でディフェンディングチャンピオンの安田毅史が追っている。大崎誠之が12ポイント差、酒井大作が16ポイント差で続いているが、事実上、タイトル争いは、渡辺と安田の一騎打ちと言えるだろう。

逆転タイトルを狙う安田は、事前テストから2分14秒台をマークする好調ぶりを見せ、公式予選では、コースレコードを大幅に更新する2分14秒170

をマーク。これは本人も予想以上のタイムだったと言う。

一方、渡辺は、2分15秒121と、2分14秒台には入れられなかったものの、ベストタイムを出した周はクリアラップではなかったと言う。クリアラップが取れていれば2分14秒台に入っていたはず。決して渡辺の調子が悪いわけではないが、鈴鹿での安田の速さは目を見張るものがある。ただアベレージでは14秒台で周回できるとは思えない。安田自身「逃げられるとは思っていない。序盤は様子を見て終盤で勝負できればいい」とコメント。レースをコントロールし、渡辺との間に他のライダーを入れてゴールするのが安田の理想だろう。渡辺は、2位に入れればいい状況だが「守りに入ったら絶対に(チャンピオンは)獲れない」と気合いを入れている。ST600のチャンピオンを決めて、JSB1000のレースに臨むのが渡辺の理想だ。

安田と渡辺の間に割り込んできそうなのが酒井大作と辻村猛、そして自己最高グリッドの2番手につけた野田弘樹だろう。

野田は、事前テストから安田と情報を交換しマシンを仕上げた。「どこまで頑張れるかわからないけれど、精一杯走る」と安田のタイトル獲得をバックアップする構えだ。奥野正雄、大崎誠之、佐藤裕児のヤマハ勢もトップ争いに絡む可能性は多いにある。泣いても笑っても最終戦、トップ争いの行方と共に、タイトル争いの行方にも注目するべし!

[佐藤 寿宏]

写真(上):安田毅史 (下):野田弘樹

横江竜司、コースレコード更新で盤石の ポールポジション! 全勝チャンプ誕生か!?



2006年シーズンの全日本選手権は、ここ鈴鹿サーキットで最終戦を迎えた。ここまで5戦全勝と圧倒的な強さを見せている横江竜司だが、暫定ランキング2位のラタパー・ヴィライローも好成績を取ってきたため、タイトル決定は最終戦まで持ち込まれた。ただし横江とヴィライローのポイント差は17で、通常より3ポイント多く加算される最終戦で横江が13位以上ならばチャンピオンを獲得できることを考えれば、横江のタイトル獲得は堅いと言える。

横江は「いつも通りに勝ちを狙っていきます」と最終戦に臨む意気込みを語りながら「ラタパーも宇井さんも速くなっているので、気を抜けない」と気を引き締めた。そして場合によってはタイトルを考えたレース運びをするのかという問いに「正直、それが一番大事です」と述べている。一方、横江のタイトル獲得を阻止できる唯一の存在であるヴィライローは「調子いいです。今度こそ優勝します」と表情は明るい。さらに他のライバル勢も横江の全勝だけは止めようと狙っている。

予選では終盤にスリリングなタイムアタック合戦が展開され、上位につけていたライダーたちが次々とベストラップを更新した。そして横江は最後に2分11秒894というレコードタイムをマークし、文句なしのポールポジションを獲得した。2番手には今回もヴィライローがつけ、3番手は「乗る度にタイムが上がっている」という宇井陽一。フロントローの最後の4番手は若手期待の高橋 巧だ。

鈴鹿は長いストレートや高速、低速コーナーとコースレイアウトがバラエティに富み、真に速いライダーだけが勝つことを許されるサーキットだ。今回も横江がワンサイドゲームで全勝チャンピオンを達成するのか、それともライバルが矢報いるのか、最終戦は注目の一戦となる。

[川岸 健二]

写真(上):横江竜司 (下):ラタパー・ヴィライロー

●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

- [青木 淳] 『ライディングスポーツ』編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある47歳。
- [佐藤 寿宏] 名前に“寿”があるため業界でのニックネームが“ことぶき”というめでたいフリーライター。全日本ロードレースは1994年の最終戦以来、ほぼ全戦取材している。
- [川岸 健二] ロードレース専門誌「サイクルサウンズ編集部」に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で7年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

新チャンプ中上貴晶が全勝を飾るか!? ストップ・ザ・中上は誰が!?



40分、1セッションで行われた公式予選。セッション開始早々に、バックストレートで2台が接触し転倒するアクシデントがあり、赤旗中断。このアクシデントに井手敏男も巻き込まれてしまう。転倒はしなかったものの、マシンのフロント部分が破損してしまう。ピットに戻ると、セッションが再開するまでに素早い作業で修復を終え、コースに出て行く。井手は、うまく他車のスリップストリームを使い2分19秒457をマークし、第5戦以来のポールポジションを獲得した。
「アクシデント以外は、順調ですよ。セッティン

グも決まっているしね。とにかくスタートを決めて、若い二人についていきたい。混戦になれば勝機は見えてくるはず」と井手。

新チャンピオンの中上貴晶は、「まだまだ課題が山積みですね。朝のウォームアップでセッティングを詰めて、決勝でコースレコードを出して勝つことができるようにしたい」と強気のコメント。今シーズンの中上は、いずれも決勝に最高の状態にしているだけに、ハイレースで走りきりたいところだろう。

前戦の岡山でマシントラブルと悔しい結果に終わった菊池寛幸も、ゼッケン1の意地を見せたい。「悪くはないけれど、まだ勝負できる状態まできていない。決勝までにマシンをまとめて、気持ちよく最終戦を走って終わりたい」と菊池。

前戦で中上に食らいついていった富沢祥也は、「仕上がりはいいし、攻めていける状態だけど、決勝は、みんなタイムを上げてくるはずだから、もっと頑張らなとね。最終戦だし、勝って終わりたい」と初優勝に虎視眈々。山本武宏、浪平伊織、菅原稔永、竹内吉弘、徳留真紀なども、今シーズン最高の仕上がりを見せており、久しぶりに軽量クラスらしい混戦になる可能性が高そうだ。

また、前戦岡山で右手中指を骨折、薬指にヒビが入ってしまっ仲城英幸は、金曜日に行行したもの、レーシングスピードで走るには厳しい状態だったため、残念ながら欠場を決めた。「得意な鈴鹿だし、最終戦ということもあって走りたかったですね」と仲城。コースレコードホルダーでもあるだけに悔しい決断となった。

[佐藤 寿宏]

写真(上):井手 敏男 (下):中上 貴晶

SUPERBIKE SUPPORTERS



あなたの観戦スタイルにあった
4種類のパスで、
今年も国内最高峰の
ロードレースをお楽しみください。



詳しくは、
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局
TEL : 0285-45-8465(AM11:00~PM7:00 月曜定休)
またはオフィシャルファンサイト superbike.jp まで

EVENT INFORMATION

キャンペーンガール フォトセッション

- 場 所: ビット上ホスピタリティブースNo12 (1コーナー側)
※参加にはバックパスが必要となります。
- 時 間: 9:15~9:45

北川圭一 引退セレモニー

2005・06年2年連続世界耐久選手権チャンピオン北川圭一の引退セレモニーを開催。V2マシンGSX-R1000によるパレード走行も実施します。

- 場 所: 国際レーシングコース・ホームストレート
- 時 間: 11月5日(日) 11:40~のビットウォーク時に実施(予定)

ビットウォーク/キッズ・ファンサービス ドラッグレースデモンストレーション

ビットウォークでは、中学生以下のお子さまを対象に、参加チームがいるようなキッズ・ファンサービスを準備。ぜひ、この機会に体験してみよう!コース上ではドラッグレースデモンストレーションやキッズパレードも開催。

- 場 所: レーシングコース・ビット周辺
- 時 間: 11:40~12:15
- ビットウォーク券¥1,200(税込)・S1席入口手前チケット売場で販売)

サーキットクルージング(2輪無料体験走行)

- 受 付: 16:00~グランプリスクエア バイク専用無料駐車場内
走行前ミーティング/16:10~16:20
- 時 間: 16:30~走行開始 (予定)
- ※詳細は鈴鹿サーキットSMSC事務所 059-378-3405まで
- ※イベント内容・時間・出演ライダー等は変更されることがあります。

GP-MONO



予選日の最後となったGP-MONOの公式予選は、15分間の1セッションで行われた。国内ライセンスランキングトップの森隆嘉が2分28秒157でトップだったが、セッション残り2分で平石理が28秒055、最後の周回で27秒862をマークして逆転でポールポジションを獲得した。初代全日本GP-MONOチャンピオンを狙う山下祐は、予選5番手からスタートとなった。

「明日も4~5台の混戦になるはず。前回転倒しているの、落ち着いていきたい」と平石が語るように、決勝レースは予選上位陣による混戦模様となりそう。

公式予選結果 ●決勝スタート/10:00~(10周)

Pos	No.	Rider	BestTime	Team
1	99	平石 理	2'27.862	レーシングチーム ハニービー
2	11	岡田 義治	2'27.916	MRF&RH松島
3	2	森 隆嘉	2'28.157	KRS&PLUS ONE
4	15	吉川 真一	2'28.893	RATS&ライディングスポーツ
5	51	山下 祐	2'29.068	ZB&ピクチャー.PLUSSONE
6	21	永田 正己	2'29.837	TWS&ZIPBIKE
7	3	斎藤 一輝	2'30.102	ケントウラストスズキ
8	31	中野 佳則	2'30.606	アゲインRC&いっちゃん!
9	18	小原 晃	2'30.681	チームフレッド&Pパドック
10	10	藤崎 直之	2'30.866	チームスガヤ・PILOTA
11	65	繁野 明治	2'31.655	ホットバンクUSA&癒癒の湯
12	3	赤間 清	2'31.663	CLUB HARC-PRO.
13	25	榊原 徹	2'31.666	ZIPBIKE豊橋ユビクツR
14	46	松永 直人	2'32.141	
15	14	田中 敬秀	2'32.301	MRF&RH松島ブートレグブース
16	55	吉川 光弘	2'32.548	Team Life・ドリーム
17	13	阿部 徹郎	2'33.548	あべスピ・ヤマハ&セルコホーム
18	9	高橋 哲也	2'33.551	ウイニングラン
19	67	竹村 宏光	2'33.825	チームライディングスポーツ
20	52	田中 信次	2'33.899	アゲインレーシングクラブ
21	39	法月 多嘉夫	2'33.914	MARS&OMEGA&ベアー
22	38	山口 慶高	2'34.516	Team MIKUNI GPmono
23	37	手塚 隆司	2'34.781	ウルフマン&Tヨシハル&鉄馬
24	40	小山 隆浩	2'35.185	18 GARAGE RACING TEAM
25	56	梶澤 雄太	2'37.101	ウルフマン&Tヨシハル&鉄馬
26	26	福岡 大吾	2'37.801	M-A-R・S&KDC
27	36	編田 道武	2'38.853	パワーバイレーシング
28	23	江?屋 孝	2'38.900	プリミティブR☆ISプランニング
29	155	吉島 正治	2'39.253	MRF&MPF&NPF&NTR
30	42	小沢 良美	2'41.231	バーニングブラッドRT

ミニバイクから世界GPまで
ロードレースのすべてがここにある

RIDING SPORT

毎月24日発売

2006年12月号<No.287>は好評発売中!

株式会社ニュース出版

CYCLE ROADSPOITS MAGAZINE

月刊サイクルサウンズは 毎月24日発売

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂